



第70回国連総会におけるサル・セネガル 大統領一般討論演説(2015年9月28日)要旨



※ 本文は演説の全訳でなく要旨です。また、本文の小見出し番号は当館において便宜上記したものである旨御注意下さい。

1 国連の役割

設立から70年が経過した国連の役割はますます重要なものとなっている。貧困、飢餓、病気、環境破壊等が世界を脅かしている中、セネガルはパリで開催予定の気候変動枠組条約締約国会議（COP）が成功裏に開催されることを願うとともに、環境保全のための資金の動員と技術移転を期待する。また、人種差別、外国人差別、過激主義などの問題も克服されなければならない。移民労働者は受け入れ国の繁栄に貢献しているにも関わらず差別され、政治から排除されている。我々は戦乱のために国外に避難する人々をより寛容に受け入れなくてはならない。

2 国連改革の必要性

設立後70年を経た国連が、今日的な状況下で本来の任務に忠実であり続けるために、現代の世界の現状に即して安全保障理事会を拡大する必要がある。本年非常任理事国に立候補しているセネガルは、エズルウィニ合意に基づき、安保理改革に関するアフリカの共通の立場への支持を再確認する。

3 経済ガバナンス改革の必要性

国際的な経済ガバナンスをより公正なものに改め、一部の資源を持つ国々がそれにアクセスできないという矛盾を解消しなければならない。そのために鉱山部門の透明性を確保し、産出国とその国民に利益がもたらされるよう、公正かつ公平な制度を整備しなければならない。また、300から600億ドルの不正資金が毎年アフリカから流出している現状を憂慮する。

4 西アフリカの現状

ECOWAS議長として、西アフリカの順調な経済発展を嬉しく思う。ECOWASはマリにおける和平合意、ブルキナファソにおける政権移行の成功、ギニアビサウにお

ける情勢の安定を支持するとともに、ナイジェリアをはじめとする国々によるボコ・ハラムとの闘いへの連帯を表明する。また、我々はエボラ出血熱に見舞われている3か国が同病を根絶するために協力する。

5 平和のための取組

イスラエル・パレスチナ紛争の包括的かつ持続的な解決及び、独立国家である両国が国際社会の承認のもとに国境線を確定し、平和裏に共存することを支持する。セネガルによる国連平和維持活動への貢献は世界で第7位の規模であり、現在8つのミッションに3600名が派遣されている。昨年、国連がセネガルのンバイ・ジャーニュ大尉（当館注：1994年、ルワンダで平和維持活動に従事し、数百人の市民を救出するも、その後殉職した）の名を冠したメダルを創設したことを誇りに思う。

（了）